第 20 回情報システム学会全国大会・研究発表大会
ベストペーパー特別賞　受賞記

佐久大学　中嶋 智子

このたび、ベストペーパー特別賞という大変名誉ある賞を頂戴し、心より感謝申し上げます。本研究がこのように評価されましたことを、嬉しく思うとともに、本学会に関係する方々に深く御礼申し上げます。

本研究は、医療情報システムにおける「情報」の概念を再考し、患者と医療者が協働しながら進化する「共進性」という視点のもと、次世代型システムの設計にむけての課題について考察したものです。近年、マイナンバーカードと健康保険証の一体化やデジタルヘルス技術の急速な発展に伴い、医療者と患者が健康データを共有し、共に活用していく新たな医療環境が求められています。しかしながら、現行の医療情報システムは依然として医療者中心の設計が主流であり、患者が主体的に情報を活用できる基盤づくりとしては、まだ途上の段階です。

そのため、本質的な課題を見極めるために、まず医療で扱う情報を西垣通氏の基礎情報学における三つの情報概念（生体情報・社会情報・機械情報）に依拠しながら再考しました。患者の個別性に応じて情報を再帰的に活用するしくみには、医療者と患者が共に進化する「共進性」が欠かせません。そのうえでデジタル技術が医療者と患者の関係性に与える影響について考察し､次世代型医療情報システムにむけて新たなモデルを提案しました。この研究が、医療の質向上や患者中心の医療の実現に貢献する一助となることを期待します。

この研究の過程でとくに感じたのは、システムの技術的な側面である標準化（マスター・コード）は進んでいるものの、人と人の関係性、そして社会のあり方に目を向けることの重要性です。また、医療情報システムの「共進性」は、単なる技術革新ではなく、患者と医療者の意識や社会的インフラの変革を伴う包括的な取り組みであるべきだとことも再認識しました。こうした視点が評価され、受賞につながったことは、研究者として何よりの励みになります。今後、マイナ保険証が社会に普及し、個人の健康情報を自ら管理することがあたりまえになる社会では、医療情報は多様な形で利活用されてゆくでしょう。医療情報システムの新しい形を模索しながら、さらなる研究を継続して参りたいと思います。